

岩手県立図書館 子ども向け



きょうどしりょう  
郷土資料

vol.4

はら たかし  
原 敬



きょうど  
「郷土」とは  
生まれ育った  
ふるさとの  
こと！



きょうど  
「郷土」の  
ことをたくさん  
知ろう！



# はじめに

べんきょう  
キラーイ！！

昔の人のことなんか  
知らなくても  
よくない？！

さんせーい！  
ブラリー

そめちゃん

**1**

そんなことないよ！  
昔があるから今があるんだ。  
大事な事なんだよ！！

どこが  
大事なの??

しかくい?

ブックポスト

ポストン

**2**

原敬は、本宮村（今の岩手県盛岡市）で生まれ  
した。世の中、明治維新のころから明  
わなる明治維新のころの元にも時代  
のなみが押し、盛岡藩が、う  
らぎりものである「戦早」にさへしたのです。  
この戦争は、くやしいできごととして原少年の心に深  
くきざみ込まれ、人になり政治家として  
有名になった原は、よみ数多くの作品  
をのこしています。よき名前である俳号  
は「一山（または逸）は明治維新のとき言わ  
れた、東北地方をあ、白河以北一山百文」（福  
島の白河より北は一山百文らしいの安い価値しかない  
という意味）から、あえてえらんだといわれています。  
原少年は大人になり亡くなるまで、どのように生きた

**3**

大人の話は  
むずかしいので  
わたし  
私 たち子ども向けの  
しりょう  
資料を作ったよ♪  
いっしょ  
一緒に見ていこう！

ポストン  
大人  
なんだ...

**4**

## 目 次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| はらたかし<br>原 敬 ってどんな人？        | 1  |
| たんじょうから少年時代まで               | 2  |
| はらたかし さくじんかん<br>原 敬 と 作 人 館 | 3  |
| 上京・そして政治家へ                  | 6  |
| きょうど<br>郷 土 の た め に         | 10 |
| まとめ                         | 11 |
| おまけエピソード                    | 13 |
| はらたかし<br>原 敬 年 表            | 15 |
| さんこうしりょう<br>参 考 資 料         | 17 |
| きょうりよく<br>協 力               | 19 |

# はらたかし 原敬ってどんな人？

はら たかし  
原 敬

(<sup>あんせい</sup>安政3年(1856)2月9日～大正10年(1921)11月4日)

<sup>めいじ</sup>明治・<sup>せいじか</sup>大正期の政治家であり、岩手県を代表する先人の一人。

大正7年(1918) 第19代内閣総理大臣。

親しみをもって「平民宰相」と呼ばれた。

大正10年(1921)11月4日東京駅で刺され65才で死去。

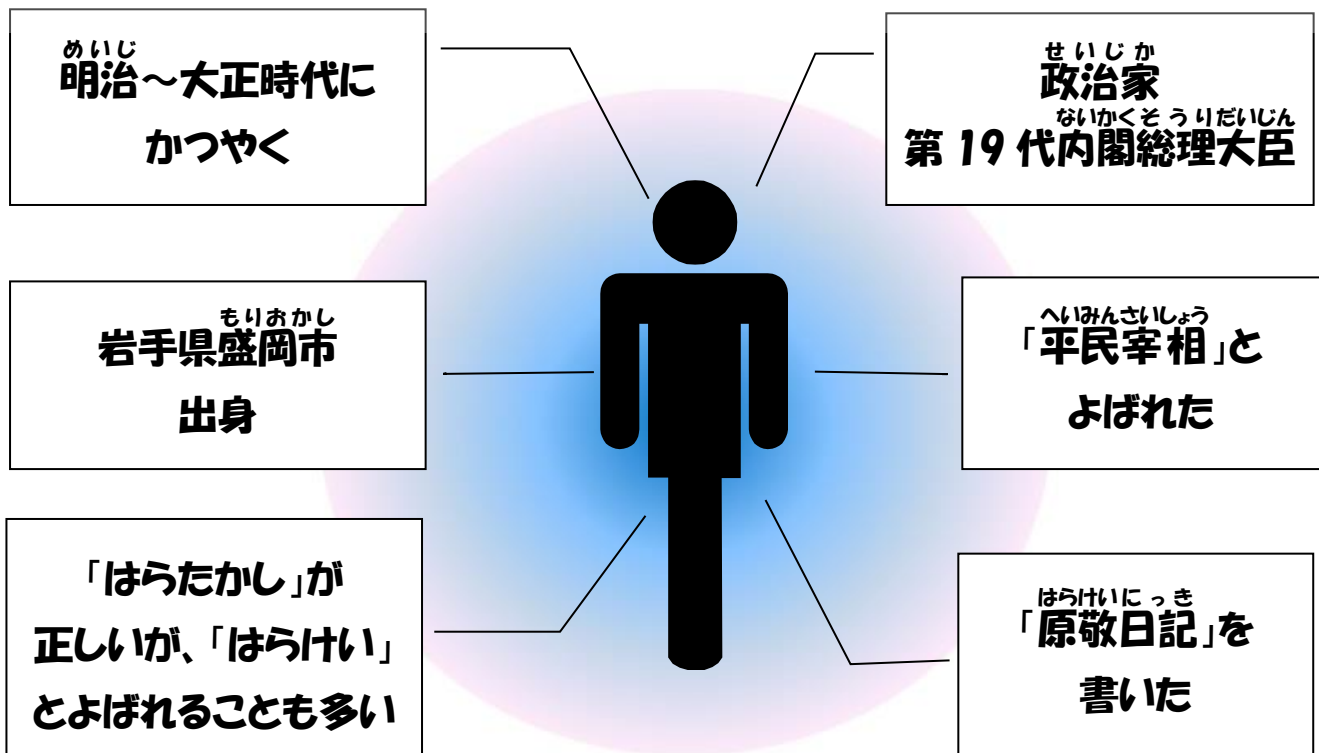
墓は岩手県盛岡市内の大慈寺にある。

『原敬日記』、フランス語の翻訳書などを書いた。

郷土岩手のために、鉄道や岩手県立図書館を作ることや、『南部史要』

という南部藩(盛岡藩)の歴史が書かれた本を出すことを助けた。

岩手県盛岡市内には、原敬記念館がある。



ブラリー  
わかった？



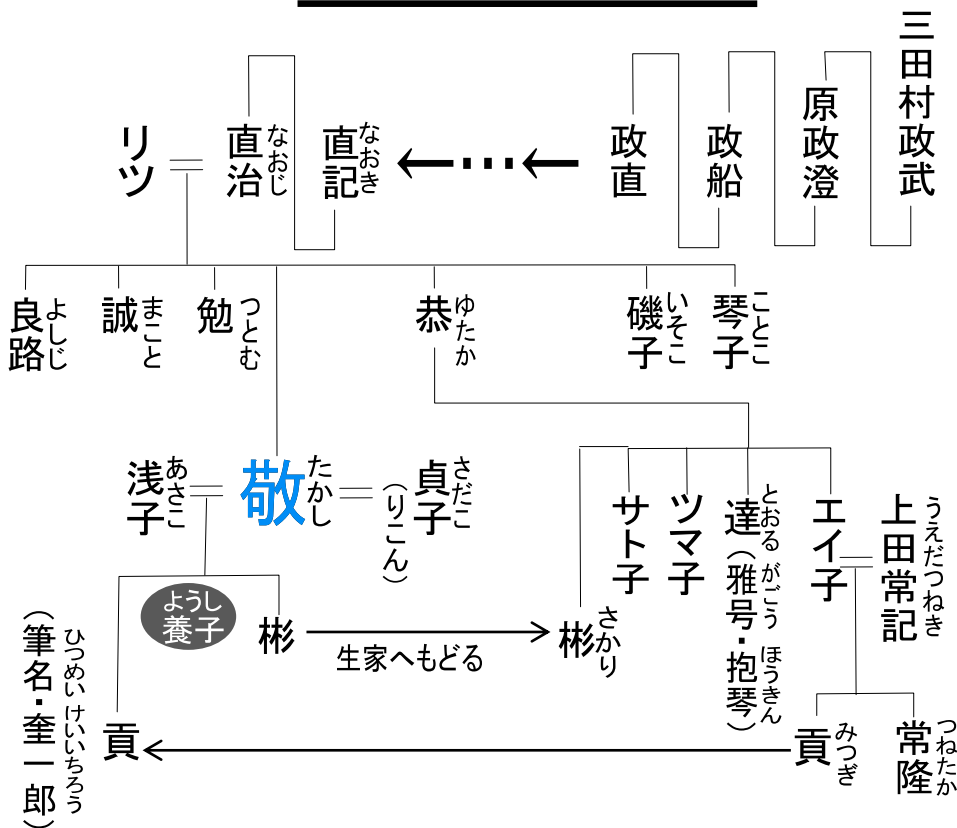
1



せいじか！

# たんじょうから少年時代まで

## はらけ かけいず りやくず 原家の家系図(略図)



はらたかし  
原 敬は、  
えど 江戸時代の終わり  
ころに当たる  
あんせい 安政3年  
(1856)、しぞく 士族  
(お侍の家)の  
二男として  
生まれましたよ。

はらたかし 原 敬は、子どもの時の名前を けんじろう 健次郎といい、あんせい 安政3年 (1856) 2月9日、岩手郡 ぐん ちとみやむら 本宮村 (現在の盛岡市本宮) に父 (直治)、母 (リツ) の二男として生まれました。原家はおじいさん (直記) が もりおかはん 盛岡藩の かりょうしやく 家老職 があるほどのりっぱな いえがら 家柄で、19才 (数え年で 20 才) のとき分家して へいみん 平民となるまでは、しぞく 士族 (お侍の家) の子として すご 過ごしています。

けんじろう 健次郎は、かんせき 習字や さんじゆつ 漢籍、算術を学び、おだやかで あらそ この 争いを好まない子どもでした。まんえん 万延元年 (1860) におじいさん (直記) を亡くした後、ぶんきう 文久3年 (1863) には隠居した父に代わり兄の へいたろう 平太郎 (恭) が原家をつぎましたが、その父も けいおう 慶応元年 (1865) に亡くなりました。その頃 へいたろう 平太郎も けんじろう 健次郎もまだ若く、めいじき 明治期に入り、ぼしんせんそう 戊辰戦争による なんぶけ 南部家の しろいしてんぼう 白石転封 (戦争にやぶれ、もりおかはん 盛岡藩のお殿様が現在の宮城県白石市に移った) が言いわたされる ころ 頃まで、家のことは母 (リツ) がとりおこなったのです。

ぼしんせんそう 戊辰戦争をすごし、こころざし 志を新たに けんじろう 健次郎が はんこう 藩校 (もりおかはん 盛岡藩の学校) 「さくじんかん 作人館 しょうぶんじょ 修文所」に入学するのは、その後のことです。

# はらたかし さくじんかん 原 敬と作人館



がっこう!

はらたかし  
原 敬が14才のときに入学した学校が  
さくじんかん  
「作人館」。15才で東京に出るまで、  
なかまたちといっしょに学んだよ。

- 盛岡藩校（藩の学校）「明義堂」が、江戸時代の終わりの頃の慶応元年（1865）に「作人館」という名前になり、文学を学ぶ「修文所」・武術を学ぶ「昭武所」・医学を学ぶ「医学所」の3つができました。
- 作人館の場所には、後に仁王小学校が建ちました（その後、今の場所にひっこしました）。

## ★びっくりランキング★

### ★No.1 「名前が変わった！」

15才のとき、上京し盛岡藩主・利恭などが作った英学校「共愼義塾」に入ることを決め、元服して「健次郎」から「敬」という名前になりました。

### ★No.2 「頭が良くて、学費いらず！」

成績優秀で盛岡藩が学費を出す藩費生となり、学校の寮に入る費用を藩が出し、明治4年（1871）春には句読師心得（先生の助手）になりました。

### ★No.3 「がんこ一徹！」

作人館の寮で原敬と同じへやだった枳内元吉によると、ほかの学生たちは、破れたみすぼらしい衣服と手入れをしていない頭髪で、腕力をほころとところがあったが、原敬は常に服装を乱さず、背が高く筋骨もたくましかったけれども、腕力を使うことは絶対になかったということです。

また、動作もとても几帳面で、よくきまりを守ったそうです。討論会で意見を言うことがあっても、ただ一回強く言うだけで、ほかの意見に対して、決して反論はしなかったということです。


★クイズ★ さくじんかん 作人館のなかまたち【同級生と先生】

**もんだい**  
さくじんかん  
 4人の内、作人館の先生は何人いる？  
 (こたえは次ページ)



ポストのシンキングタイム♪

**ヒント**  
 同級生は同じ年？！



(※) がっき『学軌』  
 岩手県立図書館 所蔵  
 (ホームページでも見られるよ！)



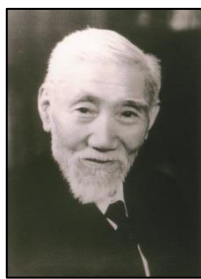
なか ごろう  
 那珂 梧楼  
えばた ごろう  
 (江幡 五郎)

【1827 - 1879】

漢学者

みちたか けんや  
 本名は通高、堅弥、  
けんすけ ごろう  
 堅輔、五郎とも。  
めいぎどう さくじんかん  
 明義堂・作人館  
きょうじゆ わかんいちち  
 教授。和漢一致を  
 書いた『学軌』(※)  
さくじんかん  
 は、作人館の教育  
 を表します。東京で  
ゆうしゅうにちろく  
 『幽囚日録』を  
 書き、『小学校読本』  
さくせい かか  
 作成に関わりまし  
 た。

写真提供：盛岡市先人記念館



たなかだて あいきつ  
 田中館 愛橋  
 【1856 - 1952】

物理学者・理学博士

ぐんふくおかちょう  
 二戸郡福岡町  
げん  
 (現二戸市) 生ま  
ていこく  
 れ。東京帝国大学  
そつぎょう  
 理学部を卒業後、  
じゆんきょうじゆ  
 理学部 准教授  
 となり、3年間イギ  
りゅうがく  
 リス留学。帰国後  
ていこく  
 に東京帝国大学理  
きょう  
 学部物理学科 教  
じゆ  
 授となりました。  
 ローマ字運動を唱  
 えていました。

写真提供：盛岡市先人記念館

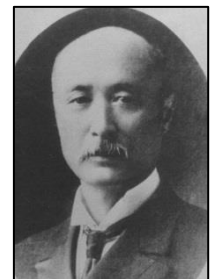


おだ ためつな  
 小田 為綱  
 【1839 - 1901】

学者・政治家

つうしょう せんや  
 通称・仙弥。  
しょうへいこう  
 昌平黌に学び、  
さくじんかん りょう  
 作人館北寮の  
りょうちょう  
 寮長に。教育に  
じょうねつ  
 情熱を注ぎまし  
さとらうしょうすけ かれ  
 た。佐藤昌介は彼  
せいしん  
 を「精神教育家で、  
しき  
 青年の志気(やる  
こぶ  
 気)を鼓舞する(ふ  
 るい立たせる)先生  
 であった」と書き  
 残しています。

写真提供：久慈市教育委員会



さとらう しょうすけ  
 佐藤 昌介  
 【1856 - 1939】

北海道帝国大学  
 初代総長

さくじんかん  
 作人館、東京外国  
 語学校などで勉強  
さっぽろ  
 後、札幌農学校第  
そつぎょうご  
 一期生。卒業後は  
 アメリカで農業を  
 学びました。  
はらたかし はたら  
 原敬が働いて  
だいどうにっぽう  
 いた大東日報に  
つうしん  
 「米国通信」を送  
きゅうりょう がくひ  
 り、給料を学費  
 の一部としました。

写真提供：盛岡市先人記念館

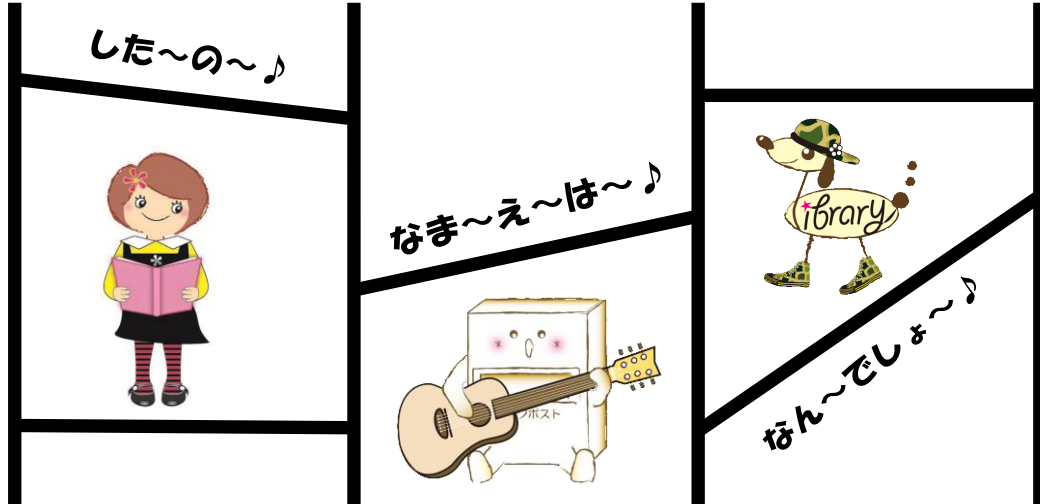
★アミダくじ★ さくじんかん 作人館のなかまたち【せんぱい】

なんぶ  
南部

なか  
那珂

きくち  
菊池

あべ  
阿部



ひろし  
浩

みちよ  
通世

たけお  
武夫

としゆき  
利恭



あべ ひろし  
阿部 浩

【1852 - 1922】

せいじか  
政治家

こうぶしょう  
上京し工部省へ入  
り、はらたかし ゆうびん  
原 敬の郵便  
ほうち  
報知新聞(いまの読  
売新聞)入りの世話  
をしました。  
きょうぶしょう ないむしょう  
教 部 省・内務省  
の後にぐんま・千葉県  
知事、しゅうぎいん ちよく  
衆議院・勅  
せんきそくいんぎいん  
撰貴族院議員、東京  
府知事等をつとめ  
ました。

写真提供：盛岡市先人記念館



なか みちよ  
那珂 通世

【1851 - 1908】

とうようしがくしゃ  
東洋史学者

なかごろう ようし  
那珂梧楼の養子。  
ゆうじょうがく  
山口県の邑城学  
しゃ しはん  
舎・千葉師範学  
校・東京女子師範  
学校長をつとめま  
した。ていこく  
東京帝国大  
学文科大学講師。文  
学はくし がくい え  
学博士の学位を得  
て中国の歴史につ  
いて『支那通史』を  
書きました。

写真提供：盛岡市先人記念館



きくち たけお  
菊池 武夫

【1854 - 1912】

ほうがくしゃ  
法 学 者  
しやだい  
中央大学初代学長

ボストン大学で  
ほうりつ  
法律を学び、しほう  
司法  
しよきかん じんじきよく  
書記官・民事局  
ちょう  
長。その後、べんご  
弁護士  
士を開業。東京大学  
ほうがくぶ ころし  
法学部講師、東京  
ほうがくいん ちよう  
法学院長、東京  
べんごし  
弁護士会会長、貴族  
いんぎいん  
院議員などをつと  
めました。

写真提供：盛岡市先人記念館



なんぶ としゆき  
南部 利恭

【1855 - 1903】

もりおかはんしゆ  
第15代盛岡藩藩主  
なんぶけはんしゆ  
(第41代南部家藩主)

めいじ  
明治元年(1868)  
しろいしてんぼう はん  
白石転封。藩知事  
に。よくとし  
翌年9月に  
もりおかはん  
盛岡藩知事として  
もど  
戻りました。東京  
えいがくじゆく きょうかん  
で英学塾「共 慣  
ぎじゆく  
義塾」を開き、はら  
たかし に と べいなぞう  
敬や新渡戸稻造、  
いぬかいつよし おさきゆき  
犬養毅、尾崎行  
お  
雄等を育てました。

写真提供：盛岡市先人記念館

# せいじか 上京・そして政治家へ

15才で上京（東京へ引っ越し）して、  
色々なところで勉強。  
23才のときから、しんぶんしゃ新聞社で  
はたらき、いよいよせいじか政治家へ！



★すごろく★ はらたかし原敬のかつやく

## スタート

15才、  
きょうかんぎじゅく共慣義塾  
入学。

へ

い

み

16才、がくひ学費の  
送金が途絶え  
ちゅうたい中退。  
1つもどる

18才、フランス人  
せんきょうし宣教師エブラルと  
にいがた新潟に行く。フランス  
語やかんせき漢籍を学ぶ。

2つすすむ

16才、  
しんがっこうカトリック神学校  
入学。

さ

ん

い

し

19才、  
はらけいにつき「原敬日記」を書  
き始める。

20才、がいむしょう外務省等の受験に  
じゅけん失敗したが、しほうしょうほう司法省法学校  
に104名中2番で合格。  
「ヤッター！」と言って2つすすむ

23才、  
しほうしょうほう司法省法学校を退学。  
ざんねん残念ポーズで、3つもどる

は

う

よ

ら



34才、  
のうしょうむだいじんひしょかん  
農商務大臣秘書官。

さ

39才、  
がいむじかん  
外務次官。

あ

33才、帰国。  
のうしょうむしやうさんじかん  
農商務省参事官。

36才、  
むつむねみつがいむだいじん  
陸奥宗光外務大臣のもと  
で通商局長。

ん

か

29才、<sup>しんこく</sup>清国（昔の中国）の政治家・<sup>せいじか</sup>李鴻章<sup>りこうしょう</sup>と交流。<sup>てんしん</sup>天津  
<sup>じやうやく</sup>条約を結ぶために<sup>つ</sup>尽くして伊藤博文<sup>いとひろぶみ</sup>に認められる。  
<sup>がいむしよきかん</sup>外務書記官の仕事のため<sup>くんしょう</sup>パリへ。勲章<sup>くんしょう</sup>をもらう。

いっばなあいさつをして、4つすすむ

27才、<sup>がいむしやう</sup>外務省文書局兼務。<sup>けんむ</sup>中井貞子<sup>なかいさだこ</sup>と結婚。  
<sup>てんしんりやうじ</sup>天津領事の仕事のため<sup>しんこく</sup>清国（昔の中国）へ。

みんなにおいわいの言葉を言ってもらい、1つすすむ

の

お

23才、<sup>ゆうびんほうち</sup>郵便報知新聞社入  
社。フランス語新聞の<sup>ほんやく</sup>翻訳  
を<sup>たんとう</sup>担当。

26才の時、会社の  
やり方と合わず、<sup>たいしゃ</sup>退社。

知っている新聞の名前を  
1つ言い、1つもどる

し

か

た

26才、大阪の<sup>だいとうにつぼう</sup>大東日報入社。

<sup>けいえい</sup>経営が思わしくなく、

その年の内に<sup>たいしゃ</sup>退社。

<sup>だじやうかんご</sup>太政官御用掛兼<sup>がいむしやうご</sup>外務省御用  
掛<sup>がかりこうしんきよく</sup>公信用に。

リ

40才、  
とくめいぜんけん  
特命全権公使（大使の次の  
くらい ちようせん  
位）の仕事のため朝鮮へ。

は

ツ

44才、せいゆうかいさいしよ かんじちよう  
政友会最初の幹事長となり、  
いとうひろぶみないかく ていしんだいじん  
第四次伊藤博文内閣の逓信大臣  
（東北地方初の大 臣）。

**東北6県を3つ言って、2つすすむ**

おおさか よくとし  
41才、大阪毎日新聞社入社、翌年に社長。  
新聞が広く読まれるよう、「言 文一致」（は  
げんぶんいっち  
なし言葉と書き言葉を同じにする）を強調  
し、漢字を少なく、ふり仮名を付けた。  
これは新聞が一般にしゃべり言葉となる  
いっばん  
より前の、早い改革と言える。その他に  
かいかく  
も人気企画で読者数を増やしていった。  
また、「でたらめ」と題した礼儀作法につい  
れいぎさほう  
ての連載が大 評判となり本を出した。  
れんさい だいひょうばん

**でたらめな名前を言って、1つすすむ**

92

だいじん  
45才、大臣をやめる。  
おおさかきたはま  
大阪北浜銀行頭取。  
ゆたか さかり ようし  
兄・恭の息子・彬を養子にする。

もりおかし しゅうぎいんぎいん  
46才、岩手県盛岡市から衆議院議員に  
りっこうほ きよおかひとし あらそ  
立候補。元市長・清岡等と争い  
たいさ とうせん  
175対95の大差で当選。  
むきようそう とうせん  
その後8回まで無競争で当選。

**となりの人とあくしゅして、4つすすむ**

おおさかしんぼうしゃ ふくおか  
47才、銀行頭取をやめ、大阪新報社社長。福岡日日  
の だうたろう たかはしみつたけ  
新聞社主・野田卯太郎らのすいせんで、高橋光威を  
へんしゅうちよう はら たかはしへんしゅうちよう  
編集長にした。原社長・高橋編集長に  
なってから、新聞の読者数は倍増。

**友だちの「ここがスゴイ！」所をほめて、1つすすむ**

い

さ

ま

ふるかわこうぎょうふく せいゆうかいせいむちようさ  
49才、古河鉦業副社長、政友会政務調査会長。  
さだこふじん りこん  
貞子夫人と離婚。

**手をふって、3つもどる**

で

64才、普通選挙法案が  
まとまらず、議会解散。  
総選挙で原の  
政友会が大勝。

し

た

### ゴール

65才、皇太子殿下裕仁  
親王（後の昭和天皇）

のヨーロッパ行きを  
後押し。東京駅南口で  
刺されて死去。  
お墓は岩手県盛岡市の  
大慈寺にある。

おまいりしてみよう

62才、兄・恭が死去。  
第19代内閣総理大臣（司法大臣兼任）。  
日本初の本格的政党内閣を作った。  
平民宰相とよばれ大人気！

クラスの人気者を一人あげて、2つすすむ

60才、三浦梧楼の家で  
加藤高明（同志会）、  
犬養毅（国民党）と  
三党首会談。

58才、山本権兵衛内閣内閣  
総辞職で大臣をやめる。

母・リツが死去。  
第三代政友会総裁（政党の代表）。

56才、西園寺公望内閣総辞職で大臣をやめたが、  
翌年に山本権兵衛内閣で同じく内務大臣。

このコマを早口で2回読み、1つすすむ

き

を

い

55才、第二次西園寺公望内閣の  
内務大臣。鉄道院総裁兼任。甥・達が  
病気のため養子・彬を戻し、兄・恭の  
娘・エイ子の息子・貢を養子とする。

が

な

50才、西園寺公望内閣で  
内務大臣。

大阪新報社長ほか会社役員  
などの役職を全てやめた。

52才、菅野浅子と再婚。  
西園寺公望内閣総辞職で  
大臣をやめて欧米視察へ  
（翌年帰国）。

欧米でいきたい国を1つ言って、2つすすむ

# きょうと 郷土のために

はらたかし きょうと  
原 敬が郷土のためにしたことの中で  
かか  
図書館に関わっている事を教えちゃうよ！



## 岩手県立図書館を作る手助け

大正9年(1920)夏、首相をつとめていた原 敬が盛岡に帰ってきた時、盛岡市長・北田親氏に「盛岡に図書館を建てたら…」と寄付を申し出たことをきっかけに、県立図書館建設の話がまとまりました。『原 敬日記』の大正10年(1921)6月23日分には、本を買うお金1万円(当時の小学校教員の初任給40~55円)の寄付申込書をさし出し、追って自分の蔵書も寄贈すると記されています。

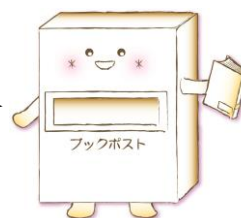
しかし大正11年(1922)4月の県立図書館開館を見ることなく、原は死去します。寄付金は原の死後に届けられ、そのお金の運用利息は昭和19年(1944)まで岩手県立図書館の本を買うお金にあてられました。

## はらたかし 岩手県立図書館に「原敬文庫」

原 敬が大正のはじめごろに盛岡市に建てた所蔵庫一棟が、原の死後、昭和54年(1979)に遺族から盛岡市に贈られました。その中で図書や雑誌は岩手県立図書館に贈られ、約797点が「原 敬文庫」として大切に保存されています。

資料の内容はジャーナリズム関係をはじめ、哲学、宗教、法学、アジアの国々について書かれた本等、広い分野にわたっています。

はらたかし  
「原 敬文庫」の本は、『岩手県立図書館原 敬文庫  
もくろく かくにん  
目録』で確認できるよ！



# まとめ

ここまで見てきた中に、<sup>はらたかし</sup> 原 <sup>せつめい</sup> 敬 を説明するための大切なキーワードが出てきたよ♪  
とっても大事だから、しっかりおぼえてね。



## はらけいにつき 原敬日記

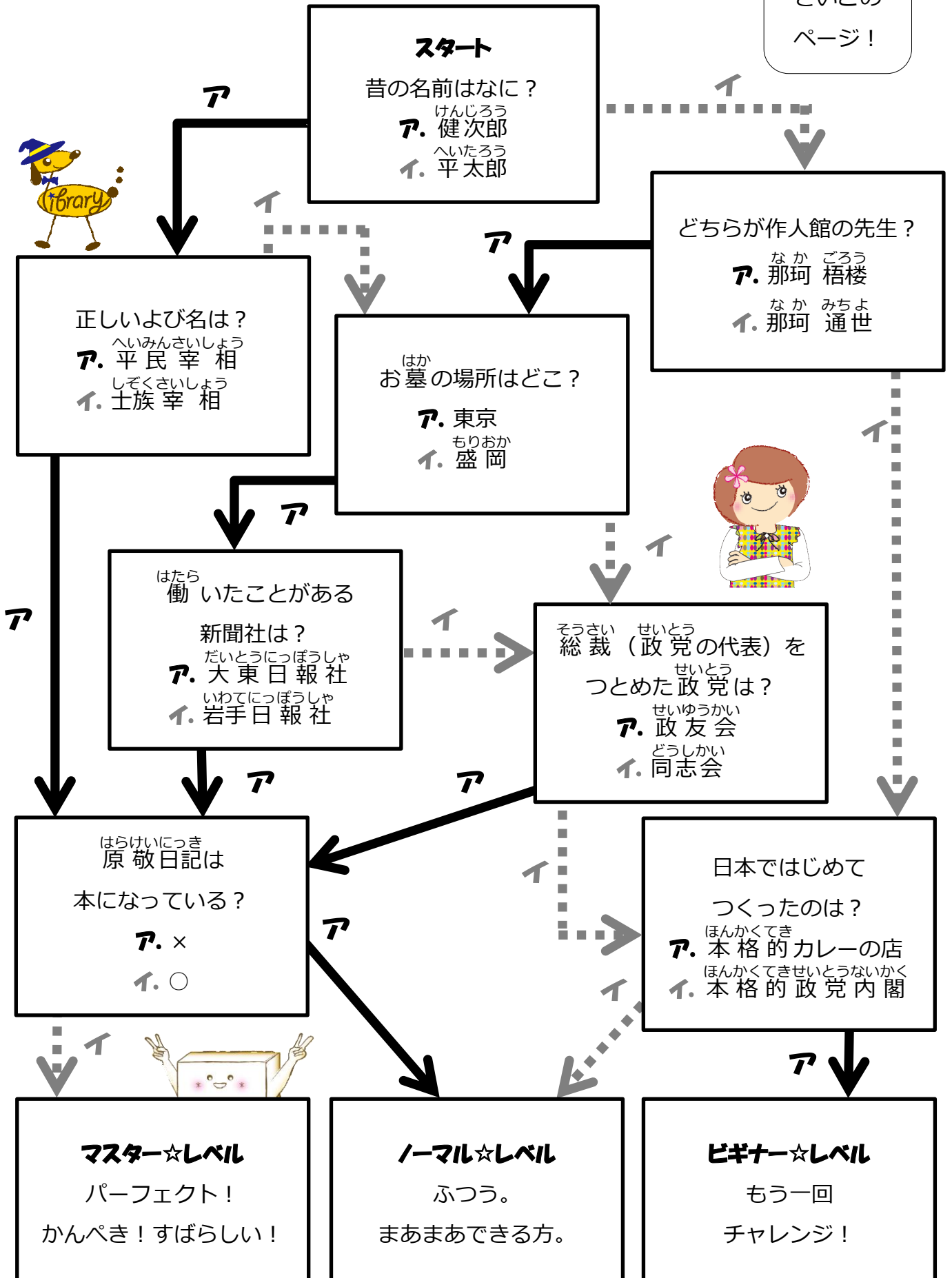
- 青年時代から首相時代に及ぶ日記。
- 期間は、19才の明治8年（1875）～65才で死去する大正10年（1921）まで。
- 遺書に「自分の日記は数十年後はともかく、しばらくの間は世の人たちに見せてはいけない、自分が残したものでこの日記はいちばん大切なものとして永く保存してほしい」という内容が書かれており、養子の貢（筆名・奎一郎）は原敬の死後30年待ち本にした。
- 日記の原本（83帖※）は、岩手県盛岡市の原敬記念館にある。原敬を知るだけでなく、明治から大正時代にかけて政界の表裏を伝える貴重な政治の歴史本。  
※ 帖は紙等の数え方で、半紙なら20枚で1帖と数える。原敬日記は83冊あり、枚数はこの通りではない。（参考『丸善単位の辞典』丸善 2002年）

## へいみんさいしょう 平民宰相

- 大正7年（1918）に首相となった原敬のよび名。
- 原は明治8年（1875）6月30日、19才の時に士族の原家から分家し、平民となった。『原敬日記』には分家する必要があるとは書かれているが、その理由については書かれていない。徴兵制度が理由とも言われる（20才以上の男子が3年兵士をつとめるこの制度において戸主と長男は免除され、官立学校生徒は卒業まで待ってもらえた）。士族の家に長男として養子に行く方法もあったが、原は分家して平民の身分で戸主になる方を選んだ。
- 大正天皇が即位するときに爵位をもらえるという話があったが、原は以前から爵位などの制度に反対していることをまわりに話しており、辞退。
- 初の無爵位、平民出身の首相誕生の日からマスコミなどは「平民宰相」とよんでおり、それまでの首相と比べて親しみを込めてよんだことは間違いない。

★やってみよう★ はらたかし 原敬チャート

こたえは  
さいごの  
ページ!



# おまけエピソード

はらたかし  
原 敬がどんな人だったのか  
知ることができるお話を紹介するね。  
しょうかい



## そうり 死んでも総理をお守りしたい

はらないかく ないかくしよきかんちょう たかはしみつたけ  
原内閣の内閣書記官長・高橋光威の言葉。  
おおさかしんぼう はら へんしゅうちょう たかはし かんけい  
二人は「大阪新報」の社長・原と編集長・高橋からの関係です。  
おおさかしんぼう はら たかはし みと たかはし  
「大阪新報」時代に原は高橋の仕事ぶりを認め、高橋は「ここに自分を知  
る人あり」と内心感激しました。その後、原が内務大臣になると高橋は秘書官  
はらないかく ないかくしよきかんちょう はら そうぎ そうぎ  
に、原内閣ができたときには内閣書記官長になりました。原の葬儀では葬儀委  
員長をつとめていて、こうしとも しんらいかんけい  
公私共に強い信頼関係があったということです。  
はら ぼしよ たかはし いこつ はか  
この言葉通り、原の墓所のそばには高橋の遺骨の一部をおさめた墓があります。



## ほうじゃく 宝積

はらたかし す  
原 敬が、好きな言葉。  
ぶつきょう きょうてん だいほうしゃくきょう  
仏教の、教典（教えが書かれた文書）の一つ「大宝積経」の中に出て  
きます。いくつかの意味がありますが、原は「人は、良い行いを積み重ねて生きてい  
くことができる。人を守って自分は守らず、人のためにつくして見返りは求めない」  
この  
という意味を好んだと言われます。  
この言葉を人に書いてあげることもあり、その一つは東京にある自由民主党本部  
かんじちようしつ のこ はらけいきねんかん きねん せきひ  
幹事長室に残されています。岩手県内でも、原敬記念館にある記念の石碑や、  
はらたかし はか もりおかし だいじじ ほんどう きざ  
原 敬のお墓がある盛岡市・大慈寺の本堂にこの言葉が刻まれています。



# いつざん いつざん 一山(逸山)という名前

はらたかし ぼしんせんそう もりおかはん そくぐん  
原 敬が12才の時、戊辰戦争により盛岡藩は、うらぎりものである「賊軍」  
とされました。この時、とうほくちほう しらかわいほくひとやまひやくもん しらかわ  
より北は一山百文くらいの安い価値しかないという意味)と言われたことが、  
きた ひとやまひやくもん やす かち いみ  
くやしい出来事として原少年の心に深くきざみ込まれました。

わす はらたかし いつざん いつざん  
この出来事を忘れずに大人になった原 敬は、俳句を始める時に一山(逸山)  
がごう はいく よ  
という雅号(俳句を詠むときの名前)をあえてえらんだと言われます。

ほうきん がごう はいく よ おい とおる いし  
俳句は、抱琴という雅号で俳句を詠んでいた甥の達おのが死去し、その遺志をつぎ、  
その死による心の痛みをいやすために始めたと言われています。ししやう たむらじゆんの  
すけ きび しどう とく ばんねん すば  
助の厳しい指導を乗りこえ、特に晩年の作品は素晴らしいとされています。

た こう けむり  
焚く香の煙のみだれや秋の風

もりおかはんしほしんじゆんなんしや  
(盛岡藩士戊辰殉難者五十年祭が行われた大正6年の作品)



## はら とおる ほうきん 原 達 (抱琴)

めいじ 明治16年(1883)2月5日～めいじ 明治45年(1912)1月17日

- 原 敬の甥(兄・恭の息子)。本名は達。抱琴は雅号(俳句を詠むときの名前)。
- 岩手県師範学校附属小学校から岩手県立盛岡中学校へ。後輩の野村胡堂、金田一京助、石川啄木等と、その後長く親しみました。
- 東京府立日比谷中学校(東京府立第一中学校に改称)へ転校し、卒業。
- 中学時代からの俳句の投稿がきっかけとなり、俳人・正岡子規から手紙をもらい会いにいくと、その若さにおどろかれたということです。
- 旧制第一高等学校入学も、病気のため休学。東京外国語学校フランス語科を卒業後、東京帝大法科選科生。
- 病気が再発したことで、原 敬の元へ養子に出ていた弟の彬が生家にもどされました。
- 将来を期待された秀才でしたが、28才という若さで死去しました。



# はらたかし 原敬年表

| 年                     | 才  | 出来事   |
|-----------------------|----|---|
| あんせい<br>安政3 (1856)    | 0  | ・2月9日、岩手郡本宮村（現・盛岡市本宮）に父・直治、母・リツの二男・健次郎として誕生。                      |
| ぶんきゆうがん<br>文久元 (1861) | 5  | ・太田代直蔵に習字を、小山田佐七郎に漢籍を学ぶ。  |
| けいおうがん<br>慶応元 (1865)  | 9  | ・父・直治50才で死去。  |
| 4 (1868)              | 12 | ・盛岡藩主が白石に転封。藩の財政窮乏し、原家も窮乏する。                                      |
| めいじ<br>明治3 (1870)     | 14 | ・藩校「作人館」再校、修文所に学ぶ。  |
| 4 (1871)              | 15 | ・7月、幼名・健次郎を敬と改める。12月、勉学のため東京に出て、南部利恭公設立の共慣義塾に入る。                  |
| 5 (1872)              | 16 | ・学費送金が途絶え共慣義塾中退。11月、カトリック神学校入学。                                   |
| 7 (1874)              | 18 | ・4月、フランス人宣教師エブラルと一緒に新潟に行きフランス語を学び、藤井介石に漢籍を学ぶ。                     |
| 8 (1875)              | 19 | ・「原敬日記」を書き始める。6月、分家して士族から平民となる。                                   |
| 9 (1876)              | 20 | ・外務省の交際官養成所、及び海軍兵学校の受験に失敗するも、9月、司法省法学校に104名中2番で合格。                |
| 12 (1879)             | 23 | ・2月、賄征伐事件で放校。11月、郵便報知新聞社入社。                                       |
| 14 (1881)             | 25 | ・5月、渡辺洪基と東北・北海道周遊。「海内周遊記」を報知新聞紙上で連載。                              |
| 15 (1882)             | 26 | ・1月、報知新聞社退社。4月、大阪大東日報主筆。井上馨外務卿に認められ、11月、太政官御用掛兼外務省御用掛信局。          |
| 16 (1883)             | 27 | ・7月、外務省文書局兼務。12月、中井弘（桜州山人）娘・サダ子と結婚。天津領事の仕事のため清国（今の中国）へ。           |
| 18 (1885)             | 29 | ・李鴻章と交流。天津条約を結ぶために尽くし、伊藤博文に認められる。5月、外務書記官の仕事のためパリ公使館へ。勲六等で旭日章を受章。 |
| 20 (1887)             | 31 | ・公務の休みに、フंक・ブレンタノ教授に国際公法を学ぶ。                                      |
| 22 (1889)             | 33 | ・4月、帰国。農商務省参事官。   |
| 23 (1890)             | 34 | ・1月、岩村通俊農商務相秘書官。5月、陸奥宗光農商務相秘書官。                                   |
| 25 (1892)             | 36 | ・8月、陸奥外相の下で通商局長。  |
| 28 (1895)             | 39 | ・5月、外務次官となり、不平等条約改正に力を尽くす。  |

| 年                  | 才  | 出来事   |
|--------------------|----|---|
| めいじ<br>明治29 (1896) | 40 | ・6月、特命全権公使の仕事のため朝鮮へ。  |
| 30 (1897)          | 41 | ・8月、陸奥宗光が死去。9月、大阪毎日新聞社編集総理。   |
| 31 (1898)          | 42 | ・9月、大阪毎日新聞社長。11月、随筆「でたらめ」を連載。   |
| 33 (1900)          | 44 | ・7月、政友会組織体制を立案、11月、入党。12月に初代幹事長となり、第四次伊藤内閣の逓信大臣（東北地方初の大臣）                                 |
| 34 (1901)          | 45 | ・伊藤内閣総辞職。7月、大阪北浜銀行頭取。11月、兄・恭の息子・彬を養子に迎える。   |
| 35 (1902)          | 46 | ・盛岡市から衆議院議員に立候補し、元市長・清岡等と争って175対95の大差で当選。以後8回まで無競争で当選。                                    |
| 36 (1903)          | 47 | ・2月、大阪新報社長。   |
| 38 (1905)          | 49 | ・4月、古河鋳業副社長、政友会政務調査会長。12月、サダ子と離婚。   |
| 39 (1906)          | 50 | ・1月、西園寺内閣内務大臣。大阪新報社長他会社役員等全てやめる。  |
| 41 (1908)          | 52 | ・1月、江刺市岩谷堂（現奥州市江刺区）出身の菅野弥太郎娘・アサ子と再婚。7月、西園寺内閣総辞職。8月、欧米視察（翌2月帰国）。                           |
| 43 (1910)          | 54 | ・5月、母・リツの米寿（88才の祝い）のため盛岡に帰省。  |
| 44 (1911)          | 55 | ・8月、第二次西園寺内閣の内務大臣、鉄道院総裁兼任。9月、養子・彬を兄・恭の元へ返す。12月、岩手郡滝沢村（現・滝沢市）上田常記・エイ子（兄・恭の娘）夫妻の息子・貢を養子とする。 |
| 大正元 (1912)         | 56 | ・12月、西園寺内閣総辞職で、内務大臣をやめる。  |
| 2 (1913)           | 57 | ・2月、山本内閣の内務大臣。  |
| 3 (1914)           | 58 | ・4月、山本内閣総辞職。5月、母・リツが92才で死去。6月、第三代政友会総裁。   |
| 5 (1916)           | 60 | ・5月、三浦梧楼の家で加藤高明、犬養毅と三党首会談。  |
| 6 (1917)           | 61 | ・臨時外交調査委員会委員。   |
| 7 (1918)           | 62 | ・7月、兄・恭死去。  |
|                    |    | 9月29日、第十九代内閣総理大臣。司法大臣を兼任。   |
| 9 (1920)           | 64 | ・2月、普通選挙法案成らず議会解散。5月、総選挙で政友会大勝。   |
| 10 (1921)          | 65 | ・2月、遺言4通を書く。  |
|                    |    | ・3月、皇太子殿下裕仁親王(後の昭和天皇)のヨーロッパ行きを後押し。  |
|                    |    | ・10月、養子・貢が英国留学。11月4日、午後7時25分、東京駅南口で中岡良一に刺され死去。11月11日、盛岡市大慈寺に埋葬。                           |

# さんこうしりょう 参考資料

## <図書>

| 書名<br>(本の名前)                            | 著者<br>(書いた人)            | 発行者<br>(出したところ)                            | 発行年<br>(出した年) |
|---|-------------------------|--|---------------|
| あの・なはん No.51                            | —                       | あの・なはん<br>へんしゅういんかい<br>編集委員会               | 2001.3.22     |
| いちざん せいとうじん はらたかし<br>一山・政党人・原 敬         | きくち たけとし<br>菊池 武利       | いわてにっぽうしゃ<br>岩手日報社                         | 1992          |
| きょういくし かん<br>岩手近代教育史 第1巻                | —                       | いわてけんきょういくいんかい<br>岩手県教育委員会                 | 1981          |
| せいし れきし だいじてん<br>岩手県姓氏歴史人物大辞典           | —                       | かどかわしよてん<br>角川書店                           | 1998          |
| はらたかし もくろく<br>岩手県立図書館原 敬文庫目録            | いわてけんりつとしよかん<br>岩手県立図書館 | いわてけんりつとしよかん<br>岩手県立図書館                    | 2006          |
| じてん<br>岩手百科事典                           | —                       | いわてほうそう<br>岩手放送                            | 1978          |
| お だ ためつな<br>小田為綱の研究                     | おおしま えいすけ<br>大島 英介      | くじし<br>久慈市                                 | 1995          |
| かほくしんぼう<br>河北新報の百年                      | —                       | かほくしんぼうしゃ<br>河北新報社                         | 1997          |
| み<br>北の大地に魅せられた男                        | ふじい しげる<br>藤井 茂         | いわてにちにちしんぶんしゃ<br>岩手日日新聞社                   | 2006          |
| さんこうしよかけいず<br>参考諸家系図                    | ほしかわ せいほ<br>星川 正甫       | —  | ぶんきゅう<br>文久年間 |
| せいじがくしてん<br>政治学事典                       | いのぐち たかし<br>猪口 孝        | こうぶんどう<br>弘文堂                              | 2000          |
| じてん<br>東北都市事典                           | とうほくと しがっかい<br>東北都市学会   | せんだいきょうどういんさつ<br>仙台共同印刷                    | 2004          |
| なんぶはんさんこうしよかけいず かん<br>南部藩参考諸家系図 第4巻     | まえさわ たかしげ<br>前沢 隆重      | こくしよかんこうかい<br>国書刊行会                        | 1985          |
| さいしようれつでん はらたかし<br>日本宰相列伝7 原 敬          | まえだ れんざん<br>前田 蓮山       | じ じつうしんしゃ<br>時事通信社                         | 1985          |
| 日本大百科全書 19                              | —                       | しよがくかん<br>小学館                              | 1988          |
| はらたかし<br>原 敬                            | いずみ ひでき ちよ<br>泉 秀樹 / 著  | いわてにっぽうしゃ<br>岩手日報社                         | 1988          |
| ★ まんが岩手人物シリーズ 1                         | しもだ のぶお<br>下田 信夫 / 画    | —  | —             |
| はらたかし<br>原 敬                            | ふくち しげたか<br>福地 重孝       | かねこしよぼう<br>金子書房                            | 1975          |
| はらたかし さいしようれつでん<br>原 敬 三代宰相列伝           | まえだ れんざん<br>前田 蓮山       | じ じつうしんしゃ<br>時事通信社                         | 1958          |
| はらたかし じよかん<br>原 敬 (上巻)                  | はら けいいちろう<br>原 奎一郎      | だいじかい<br>大慈会<br>はらたかしいとくけんしよかい<br>原 敬遺徳顕彰会 | 1998          |
| はらたかし<br>「原 敬追想 (一)」<br>『新岩手人 第8巻8号』    | はら まこと<br>(原 誠)         | しんいわてじん かい<br>新岩手人の会                       | 1938          |
| はらたかし<br>原 敬と岩手県立図書館の歩み                 | —                       | いわてけんりつとしよかん<br>岩手県立図書館                    | 2002          |
| はらたかし<br>原 敬と教育<br>はらけい ひもと<br>原 敬日記を繙く | —                       | はらけいきねんかん<br>原 敬記念館                        | 1999          |

| 書名<br>(本の名前)                                      | 著者<br>(書いた人)       | 発行者<br>(出したところ)                       | 発行年<br>(出した年)       |
|---|--------------------|---------------------------------------|---------------------|
| はらたかしでん じょうかん<br>原敬伝 上巻                           | まえだ れんざん<br>前田 蓮山  | たかやましよいん<br>高山書院                      | 1943                |
| はらけい ひもと<br>原敬日記を繙く 第2部<br>はらたかし しりょう<br>原敬研究資料11 | —                  | はらけいきねんかん<br>原敬記念館                    | 1992                |
| はらたかしねんぶ<br>原敬年譜                                  | —                  | はらけいきねんかん<br>原敬記念館                    | しゅつぱんねんふめい<br>出版年不明 |
| はらたかしねんぶ<br>原敬年譜                                  | —                  | はらけいきねんかん<br>原敬記念館                    | 1967                |
| はらたかし<br>原敬物語                                     | すずき ていじ<br>鈴木 定次   | しゅふ ともしゅつぱん<br>主婦の友出版<br>サービスセンター     | 1983                |
| はらたかし<br>ふだん着の原敬                                  | はら けいちろう<br>原 奎一郎  | まいにちしんぶんしゃ<br>毎日新聞社                   | 1971                |
| ぶっか ぶんかしじてん<br>物価の文化史事典                           | もりなが たくろう<br>森永 卓郎 | てんぼうしゃ<br>展望社                         | 2008                |
| ほんかい さいしょうはらたかし<br>本懐・宰相原敬                        | きむら こうじ<br>木村 幸治   | くまがいんさつしゅつぱんぶ<br>熊谷印刷出版部              | 2008                |
| ひょうでんはらたかし<br>評伝原敬 上・下                            | やまもと しろう<br>山本 四郎  | とうきょうそうげんしゃ<br>東京創元社                  | 1997                |
| 丸善単位の辞典   | 二村 隆夫／監修           | 丸善                                    |                     |
| めいじ はいじんはらほうきん<br>明治の俳人原抱琴                        | うらた けいぞう<br>浦田 敬三  | いわてきんだいぶんこ<br>岩手近代文庫                  | 1987                |
| ★ もりおか<br>盛岡の先人<br>ふくどくほん<br>副読本                  | —                  | もりおかし<br>盛岡市<br>ちゅうがっこうちやうかい<br>中学校長会 | 2000                |
| もりおかはんこうさくじんかん<br>盛岡藩校作人館物語                       | ながおか たかと<br>長岡 高人  | くまがいんさつしゅつぱんぶ<br>熊谷印刷出版部              | 1980                |
| れきだいないかく じてん<br>歴代内閣・首相事典                         | とりうみ やすし<br>鳥海 靖   | よしかわこうぶんかん<br>吉川弘文館                   | 2009                |

### <新聞>

|                 |   |                    |   |
|-----------------|---|--------------------|---|
| 岩手日報<br>いわてにっぽう | — | いわてにっぽうしゃ<br>岩手日報社 | — |
|-----------------|---|--------------------|---|

### <インターネットなど>

オンラインデータベース『ジャパンナレッジ』 <http://japanknowledge.com/>

ホームページ『原敬事典』 <http://homepage3.nifty.com/harakeijiten/>

★マークがついているものは、  
小学生のみんなが読みやすい本だよ。  
ぜひ読んでみてね♪



# きょうりょく 協力

この資料を作るために協力してくれた  
みなさんです。(50音順・敬称略)



くじしきょういくいんかい  
久慈市教育委員会

はらけいきねんかん  
原敬記念館

ホームページ『原敬事典』

<http://homepage3.nifty.com/harakeijiten/>

もりおかしせんじんきねんかん  
盛岡市先人記念館

## ★行ってみよう★



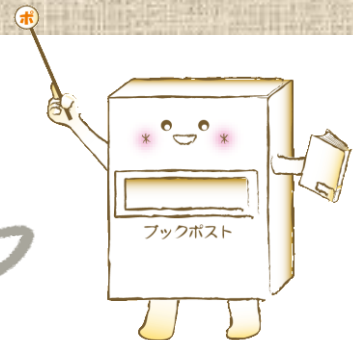
はらけいきねんかん  
原敬記念館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮四丁目38番25号

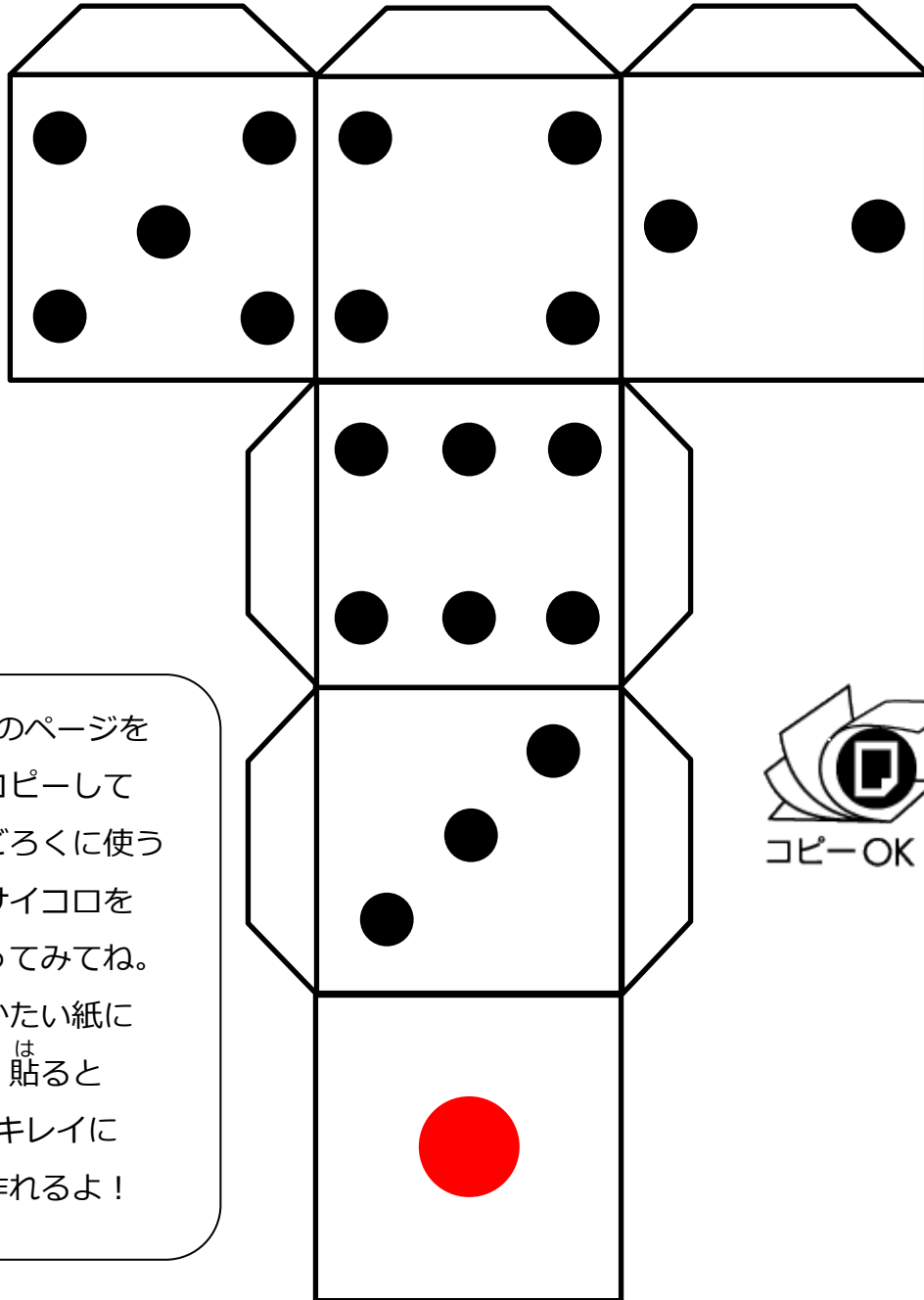
TEL 019-636-1192 FAX 019-636-1185

ホームページ <http://www.mfca.jp/harakei/> (平成27年4月現在)

この建物は、原敬が生まれた家の一部なんだ！  
原敬記念館の敷地にそのまま残されているんだよ。  
(見学できるかどうかは、確認が必要です。)



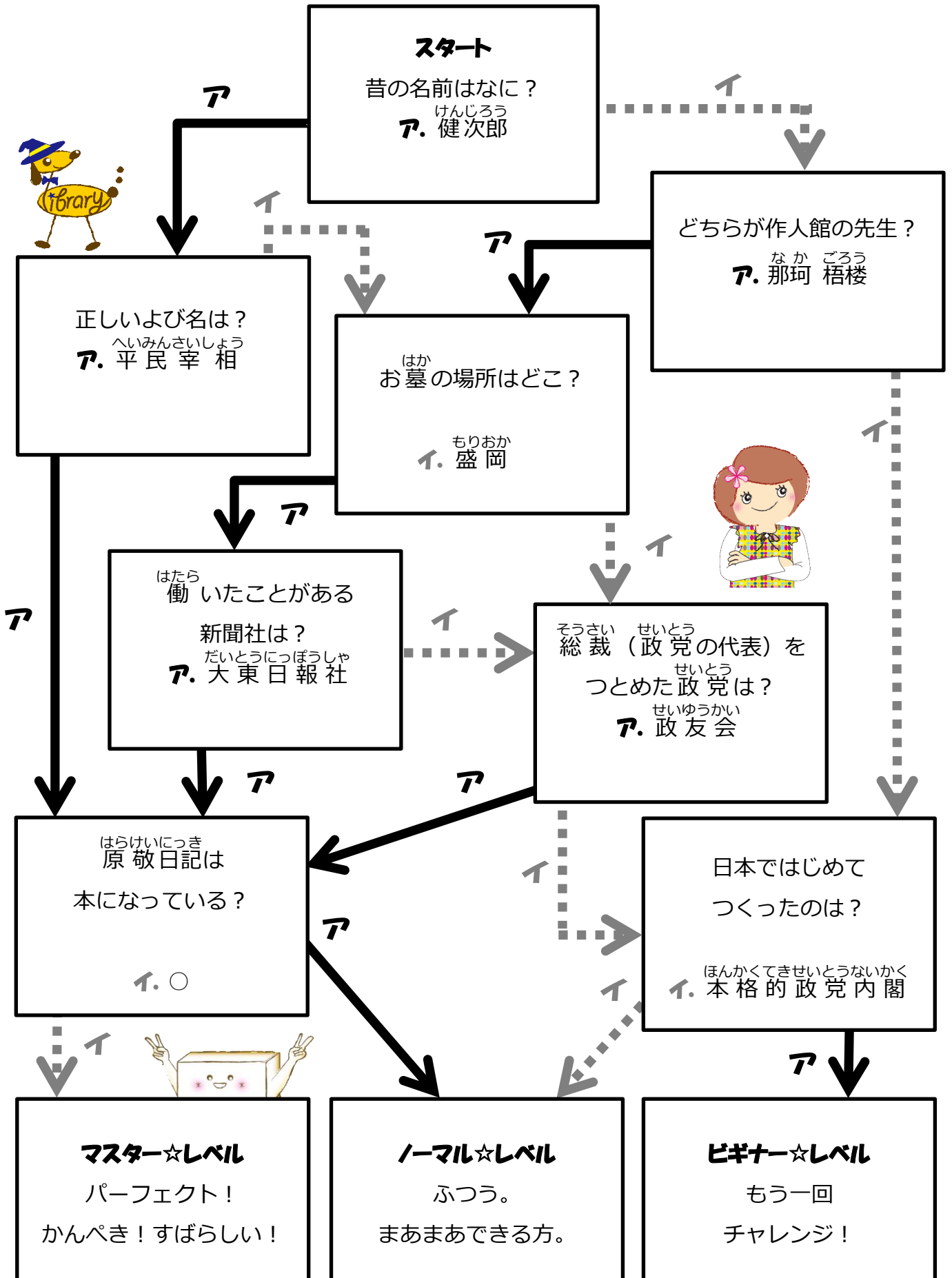
# お・ま・け



このページを  
コピーして  
すぐろくに使う  
サイコロを  
作ってみてね。  
かたい紙に  
貼ると  
キレイに  
作れるよ!



# ★12ページのこたえ★



そめちゃん



ポストン

ブラリー

岩手県立図書館 子ども向け郷土資料 vol.4

きょうどしりょう

はら たかし  
原 敬

発行年：平成 27 年 4 月

発行者：岩手県立図書館 指定管理者